

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



株式会社Re-fa

2023 年度 環境経営レポート

(活動期間 2023 年10月1日～ 2024 年9月30日)



〇〇デコ活

作成日： 2024年11月28日
更新日： 2024年12月4日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	13

椅子やソファは張り替えると新しく生まれ変わり長く使っていただけます。

Befor



After



口ごあいさつ

もったいないココロを次の世代へ
私たちの仕事は椅子・ソファの張替えや、オーダーメイドソファなどの別注製作及びそれに付帯する設置サービスを生業としています。今の時代はモノが沢山あふれていますが、壊れたら当たり前のように捨てるのではなく、昔の人は「もったいない」という心でモノを大事にし、仕事と向き合い自分を磨き、技術力を高めていました。今、私たちは、「もったいない」の本家本元として襟を正し、モノを大切にする「もったいない」の心を取り戻すべきではないかと考えています。別注製作ではただ新しいものをつくるのではなく、過ごした思い出と歴史と心も後世に受け継がれるような別注製作を目指し、職人たちはその技術を次世代につなぎ、次世代の職人たちが張り替える。決して派手ではないが、未来に胸を張れる、後世に残るこの仕事に誇りを持ちこの先も続けていきます

環境経営方針

＜環境経営理念＞

『人と環境にやさしいものづくり』

私たちは安全安心で豊かな暮らしと次世代が輝く未来をつくるため、環境にやさしいものづくりで笑顔溢れる社会に貢献していきます。

そのために、本業である椅子・ソファの張り替え及び別注ソファの生産を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

お客様に喜んでいただける商品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、自主的・積極的に従業員一丸となって継続的改善活動に取り組んでまいります。

＜環境保全への行動指針＞

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫と日々創造による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 資源を大切に、材料の有効利用と廃棄物の削減に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 有害な化学物質の適正管理に努めます。
6. リユースの生産性向上により企業価値向上を目指します。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日： 2020年10月1日

改定日： 2023年12月23日

専務取締役 原田 直美

□組織の概要

更新日： 2023年11月12日

(1) 名称及び代表者名

株式会社Re-fa

代表取締役 原田 義尊

※エコアクション21代表者は専務取締役 原田直美

(2) 所在地

本 社 大阪府大阪市西成区北津守4-4-19

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	専務取締役	原田 直美	TEL : 06-6568-4113
担当者	事務課	松井 真秘	TEL : 06-6568-4113

(4) 事業内容

椅子・ソファの張り替え及びオーダーメイド家具の製造・販売

(5) 事業の規模

売上高 282 百万円 (2023年度)

本 社	
従業員	名 16 名
延べ床面積	m ² 643.29 m ²

1級椅子張り技能士2名・縫製技能士1名

(6) 事業年度

10月1日～9月30日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社Re-fa

対象事業所： 本 社

対象外： 無し

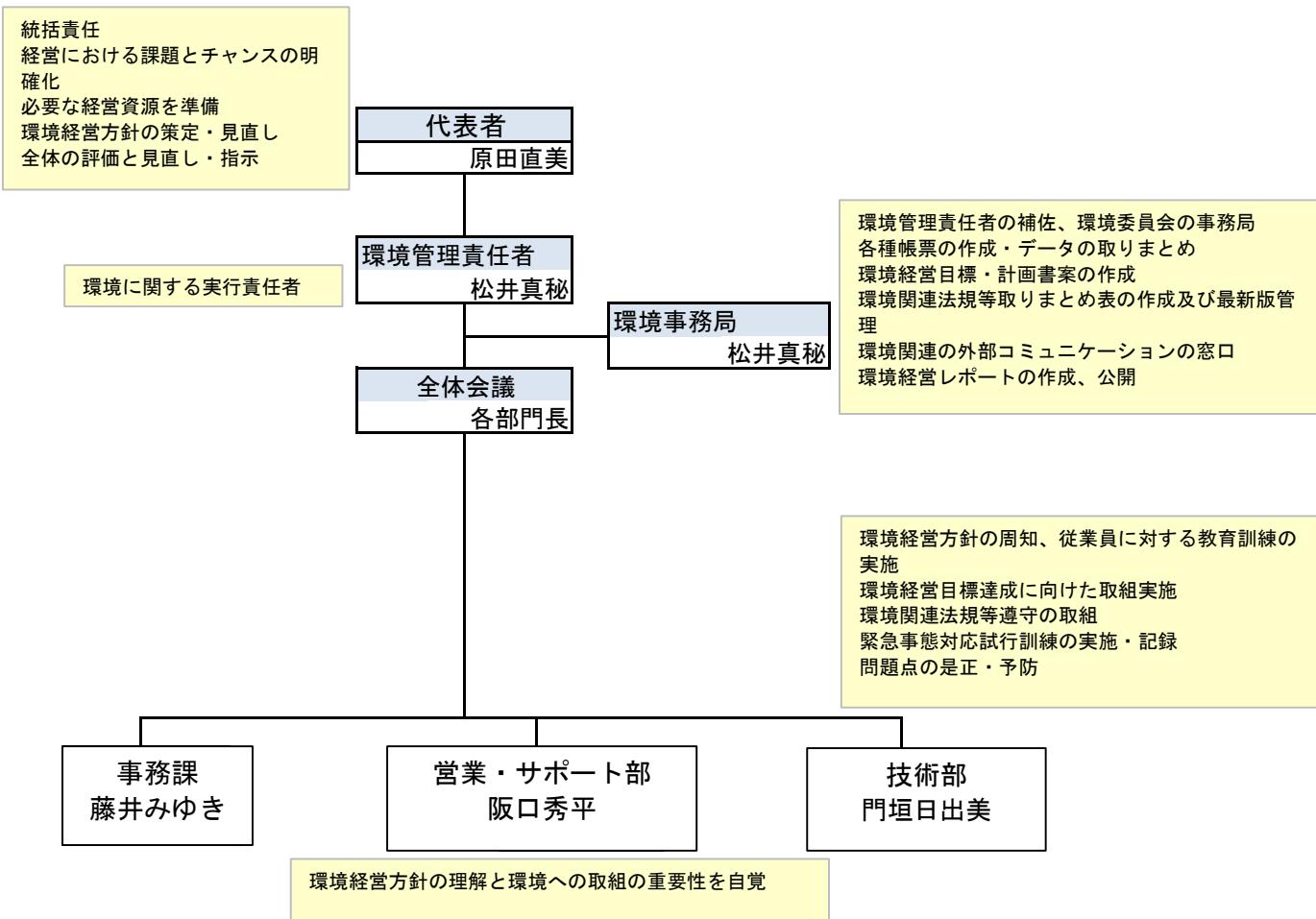
活動： 椅子・ソファの張り替え及びオーダーメイド家具の製造・販売

□事業や製品(商品)の紹介



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2024年5月28日



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	43,715	37,717	38,903
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	トン	356	282	263
産業廃棄物排出量	トン	27,470	17,805	17,525
水使用量	m ³	176	109	131
CO ₂ 排出係数(調整後)	kg-CO ₂	0.531	0.461	0.461
採用年度		2021年度	2023年度	2023年度
電力会社		関西エネルギーパワー	ENEOS	ENEOS

□環境経営目標及びその実績

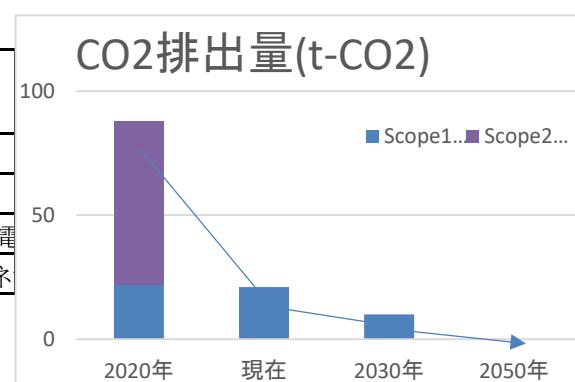
項目	年度	基準値 (基準年)	2023年		評価	2024年	2025年
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
購入電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	13,443	11,561	10,669	○	11,427	11,427
	基準年度比	2021年	86%	79%		85%	85%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	30,198	27,782	28,201	×	27,480	27,178
	基準年度比	2021年	92%	93%		91%	90%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	43,641	39,343	38,870	○	38,907	38,605
電力使用量の削減	kWh	31,568	28,096	31,568	×	27,780	27,464
	基準年度比	2021年	89%	100%		88%	87%
原単位	kWh/千円	0.133	0.118	0.106	○	0.117	0.116
一般廃棄物の削減	kg	356	285	263	○	285	285
	基準年度比	2021年	80%	74%		80%	80%
産業廃棄物の削減	kg	27,470	26,097	17,525	○	24,723	24,723
	基準年度比	2021年	95%	64%		90%	90%
水道水の削減	m ³	184	184	131	○	180	178
	基準年度比	2021年	100%	71%		98%	97%
化学物質の適正管理					行動目標 (8項による)		
リユースの生産性向上					行動目標(8項による)		
地域環境活動への参加					行動目標(8項による)		

※都市ガスは少量のため削減目標にしていません。

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位 : %

	Scope1 化石燃 料	Scope2 電力	対 策
2021年	30.3	13.4	
現在	28.2	10.7	省エネ+太陽光発電
2030年	22	0	省エネ+太陽光発電+HV自動車+再エネ電
2050年	0	0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ



□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

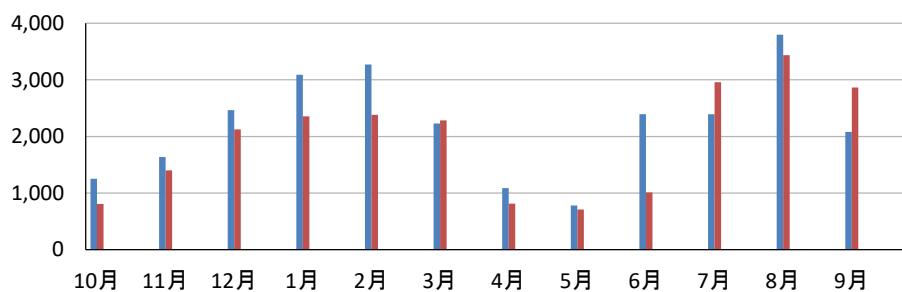
数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
購入電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	働き方改革と協力業者との連携強化が電力使用量の抑制に大きく寄与していることが確認されました。特に、物量増加や繁忙期という厳しい条件下でも効率的な業務遂行が実現されており、基準値を維持できている点は大きな成果です。
・空調温度の適正化(冷房27°C 暖房25°C)	○	
・排出係数ゼロの電力調達の検討	○	
・品質管理による作業性向上(検品)	×	今後の課題としては、業務プロセスのさらなる効率化や協力業者との新たな連携方法の模索が挙げられます。これらを継続・強化することで、さらなる二酸化炭素削減が期待されます。次年度よりRE100電力の供給により二酸化炭素の排出量はゼロになる予定です。
・生産工程の待機中消費電力の削減	△	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	×	

電力 (kWh)

■ 2021年 ■ 2023年

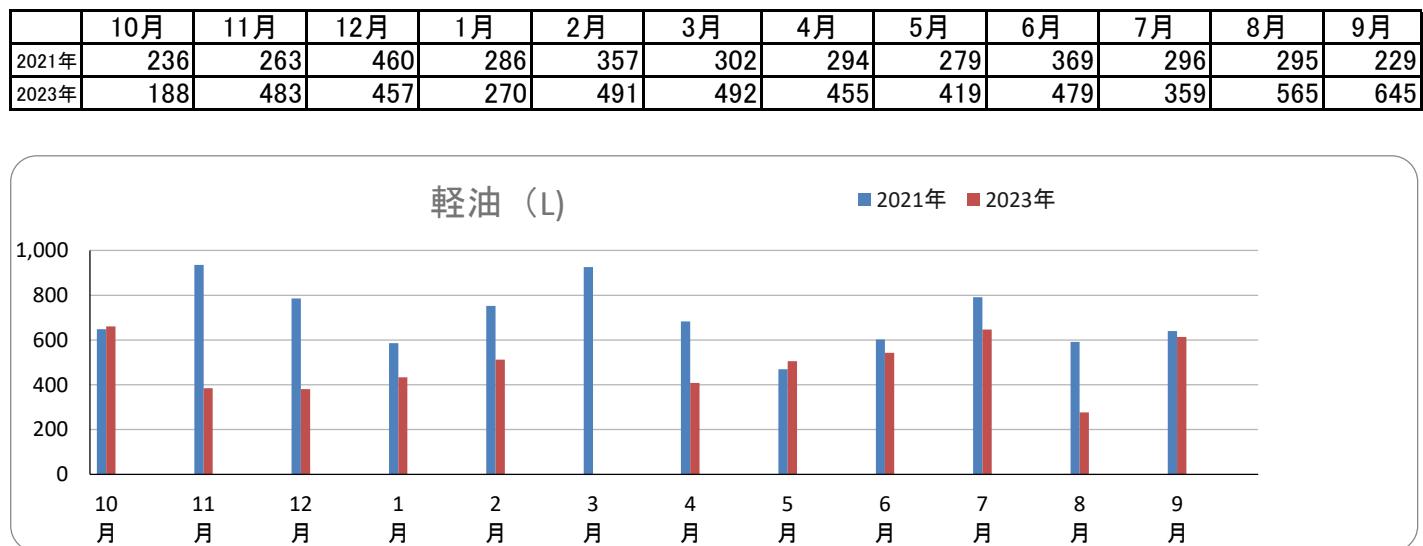
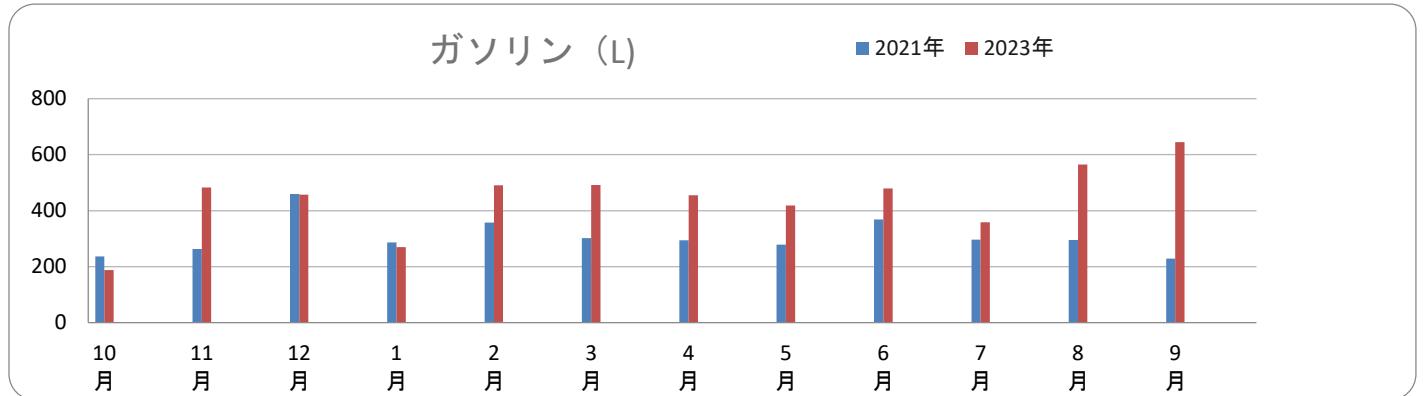


配電図表の作成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	1,250	1,638	2,463	3,090	3,272	2,231	1,090	779	2,393	2,393	3,795	2,081
2023年	807	1,402	2,125	2,355	2,383	2,281	812	710	1,012	2,960	3,434	2,863

自動車燃料による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×		
・クレーム・ミス削減による走行距離の短	○		少数精鋭の体制や協力会社への業務分散といった働き方の工夫が効果を上げ、大幅な稼働率の増加を抑えることができました。繁忙期の一部では稼働率が上昇しましたが、全体的には良好な結果を得られています。
・エコドライブ10の実践	△		今後も効率的な働き方を継続し、さらなる削減を目指していくことが重要です。
・メーター数の記録(燃費計算を可能にし	○		PHV車導入で次年度は削減を見込める。
・自動車のハイブリッド化の検討	×		再度92%を目指します。
・定期的なメンテナンス(週一タイヤの空気圧チェック)	△		
・複数件まとめた現場調査など	○		



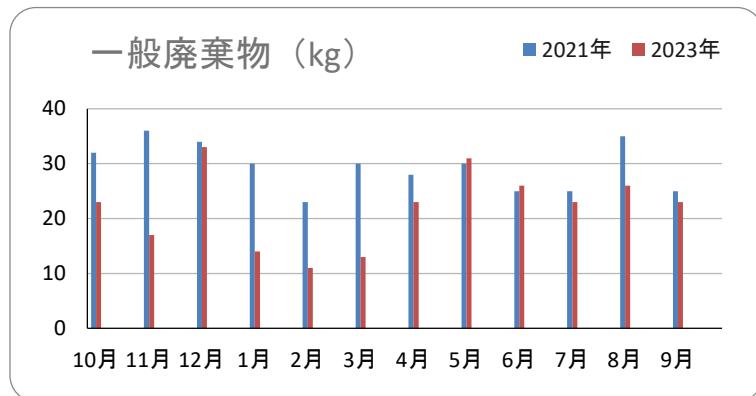
保険申時のメーターの走行距離を入力

録

2023年10月分の記録

種類	/1~10/1 走行距離(km)	開始距離 (km)	終了距離 (km)	10/1~11/1 走行距離(km)
① ガソリン カローラ	0	152,698	152,698	0
② ガソリン アルファード	1,525	106,022	107,547	1,525
③ 軽油 1.5t	3,128	96,741	99,704	2,963
④ 軽油 ハイエース小	1,496	97,543	99,036	1,493
⑤ 軽油 ハイエース大	2,095	113,206	115,301	2,095

一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	各四半期を通じてゴミ削減の対策を継続的に実践し、成果が見られる月がありました。一部の月では目標を超えるものもありましたが、全体としては社内での意識向上と共有を通じた取り組みが進んでいます。これらの努力を継続し、さらなる安定した削減を目指していくことが重要です。
・分別の徹底		○	
・帳票見直しによる印刷物の削減		△	
・梱包材の再利用		○	
・計測の実施		○	次年度75%を目指します。



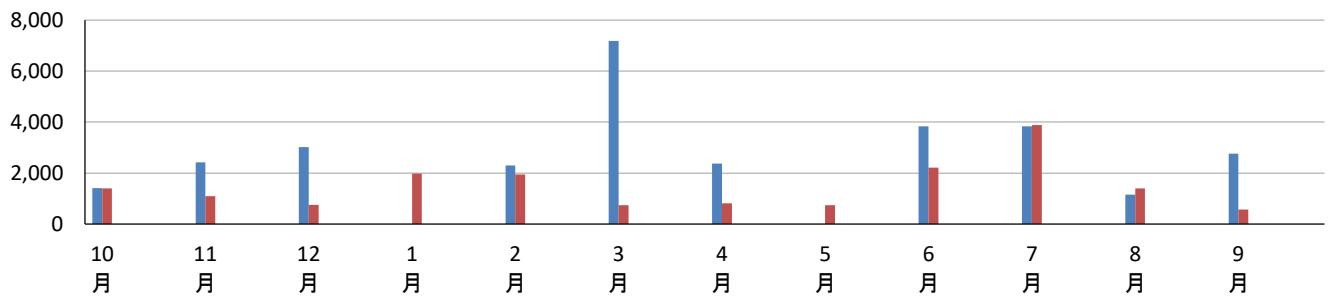
ゴミの分別ルール



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	32	36	34	30	23	30	28	30	25	25	35	25
2023年	23	17	33	14	11	13	23	31	26	23	26	23

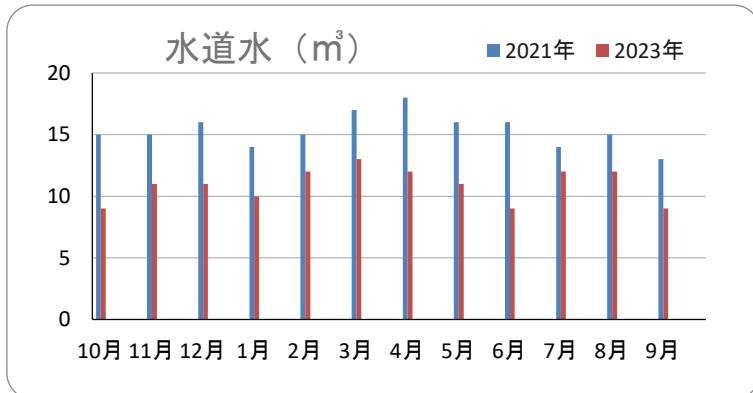
産業廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	家具の引取処分業務において資源化可能なものの分別を徹底し、端材レザーの排出を抑えるための工夫が継続的に行われています。また、作業ミスや発注ミスの削減に向けた社内の取り組みも意識されており、改善への前向きな姿勢が見られます。今後も分別の徹底とミス削減の取り組みを進めることで、さらなる廃棄物削減が期待されます。
・作業ミスによる廃棄量の削減		△	
・ウレタン材分別		○	
・CADシステムを使ってのマーキングで廃棄生地の削減		○	
・廃棄生地の販売		△	次年度は60%を目指します。

産業廃棄物 (kg)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	1,410	2,420	3,020	0	2,300	7,180	2,370	0	3,830	3,830	1,150	2,760
2023年	1,395	1,095	750	1,980	1,950	735	810	735	2,220	3,885	1,395	575

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	本年度の水道水削減においては、社員数の変動などがありながらも、2021年度の基準を引き続き採用しました。次年度に向けては、この基準を活用しつつ、より妥当な基準値を模索し、削減効果の向上を目指していきます。
・トイレに擬音装置取り付け	○	次年度は70%を目指します。



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	15	15	16	14	15	17	18	16	16	14	15	13
2023年	9	11	11	10	12	13	12	11	9	12	12	9

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・有害性物質の表示の徹底	○	リスクアセスメント受講済み。今後の化学物質使用料増え次第確認・受講等をしていく。
・容器の蓋の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制の取組	△	
・代替物質の検討(ボンド)	○	

リユースの生産性向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・数値管理	×	平均7,291円/時間を達成し、目標をクリアしました。繁忙期と閑散期のばらつきはあったものの、コミュニケーションや整理整頓の勉強会を毎月開催したことが、日常業務の改善と効率化に大きく貢献しました。また、環境整備やマネジメント、コミュニケーションに関する研修を定期的に実施することで、チーム全体の意識改革と生産性の底上げにつながっています。今後も継続して取り組むことで、さらなる向上が期待されます。
・労働時間短縮に貢献する勉強会の開催	○	
・製作工程管理	△	

地域環境活動への参加	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・小中学校の工場見学・職場体験	○	工場見学や出前授業を再開し、地域環境活動に積極的に参加しました。小学生には工場での張替えの知識を学んでもらい、中学生には実際に張替えを体験する授業を行うことで、「物を大切に使う」という意識を直接伝えることができました。
・高校のインターンシップを通して環境教育機会をつくる	×	
・小中学校への出前授業	○	これらの取り組みは地域社会とのつながりを深めるとともに、環境意識の向上に寄与しています。今後も引き続き地域活動に取り組み、持続可能な社会への貢献を目指します。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物
騒音規制法	空圧機 1.3kW 1台 0.75W 2台(法対象外)
労働安全衛生法	SDS評価
NoxPM法	社用車（ガソリン車、ディーゼル車）
消防法（危険物）	少量の接着剤(法対象外)
フロン排出抑制法	業務用空調機7.5kw以下
顧客要求事項	品質管理 リユースリペアの要望

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

活動期間中は発生しませんでした

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：火災の発生	
■実施日： 2024/5/23	■実施場所：会社
■参加者： 原田直美・門垣・岡田・藤井・松井・竹田・廣瀬・山下・河西・須本	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練	
工場の喫煙所から火災が起きたことを想定し、避難手順に基づき役割を決め最後の避難をするところまでをみんなで行動をしました。	
■評価：	手順書の変更の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
改善点：・最終確認後グループLINEでアナウンス ・1番に外に出た人が消防に連絡する。 ・消火器の使い方講習がいる。 ・工場側のドアを使う。	
■実施状況の様子	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年11月28日

<情 報>	<見直し・指示>
◇自社を取り巻く環境問題の変化 (社会的情勢、利害関係者の要求等)	◇環境方針 変更なし 2023年12月23日改訂が最新版
◇環境経営目標・計画の達成状況	◇環境経営目標・環境経営計画 RE100電力の供給によって二酸化炭素の排出量がゼロになる為電力使用量を削減目標とする。
◇その他 ・利害関係者からの苦情・要請等 ・環境上の問題点等	◇実施体制他 変更なし
<p>全体評価：2020年9月から始まったEA21への取組み以降、従業員各位の努力により、社内改善の可視化から、省資源、省エネ等に関する活動が進展してきたと思われる。今年度も引き続き社内改善・環境整備の可視化を重点に置き、更なる環境配慮への意識向上を図る事とした。これらの活動を通して、全員参加でEA21に取り組み、継続により、さらなる進展を期待したい。</p> <p>環境に関する取組みは、各部署の業務改善や環境整備からも無数に存在する。</p> <p>椅子・ソファの修理という当社の本業においても、さらに環境に配慮した取組みを行う事は、社会の要望、国等の環境配慮の諸施策等とも合致している。</p> <p>そうした実務面での前向きな取組みは、当社の技術レベル、環境意識のさらなる向上に繋がる。今後とも、基本理念に忠実に、「人と環境にやさしいものづくり」を見極め、環境配慮への取組みをさらに進展させて行くこととする。</p> <p>社内工程不良：前期の▲50% 前年36件 今期は18件以内</p> <p>クレーム削減：前期の▲50% 2023年度は5件 2024年度は2件以内</p> <p>外部からの苦情や要望および、その他対応結果：無し</p> <p>カーボンニュートラルについては次年度よりRE100電力の供給を予定している。経営の課題とチャンスで優先されるリユースの生産性向上により企業価値向上を目指す内容として働き方改革コミュニケーションにかかわる勉強会の効果をミス削減、労働時間の短縮の目標として環境経営計画書の目標達成手段を経営計画に沿って修正したい。</p> <p>基準値については社員数などの変動はあったが次年度は2021年度基準を継続する。</p>	

環境経営方針 変更なし 変更あり
 環境経営目標・計画 変更なし 変更あり
 実施体制他 変更なし 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

リーファで行っているエコ活動！！

■太陽光発電・省エネ



モジュール台数 85台



2020年10月現在 自社エネルギー自給率20%
再生可能エネルギーを導入することで、
月1,157kg(年間約13t)のCO2を削減に貢献し
ています。
※日本は一人あたり約9トンのCO2を排出

2030年目標 自社の消費電力を100%再生可
能エネルギーで賄います。

Re:fa

■資源の有効活用



椅子生地を裁断したときに、
椅子やソファに使えない半
端な生地の有効活用



2015年から開始

Re:fa

■エコキャップ活動



ペットボトルのキャップを分別して集め、
エコキャップ推進協会へ送付。
当社でリサイクルしたキャップは5,547個
で、キャップの焼却処理で排出される
40.63kgのCO2削減に貢献しています。

2012年から開始

Re:fa

■持続可能な生産消費形態を確保する



今ある資源や循環
する考えを土台に、
ソーシャルプロダ
クトの開発



Re:fa

リーファで行っている社会貢献活動！！

■学生団体とのコラボレーションで国際貢献



アフリカの子どもたちに学びの場を届ける



Re:fa

■地域活動



小学校の工場見学・中学校の職場体験
高校のインターシップ等の受け入れ



Re:fa

■社内検定制度・Re:faアカデミー（認定職業訓練
校）



100年受け継がれるものづくりと
再生利用できる技術の継承



Re:fa

□編集後記

初めての環境経営レポートの作成。この健康経営レポートの完成はもちろんのこと、CO2を削減するまでの活動含めすべてのECO活動を行うことに一人の力では難しいことが良く分かりました。社員や指導員の皆様のご協力があって活動することができると感じることが出来ました。そして今まで一社員として何気なくしていたゴミ捨てやトイレの使用水の使用電気の使用など日常で何気なく使うものを今回の環境経営として初めて自分自身で記録し、数字をみることで会社の経営状況・運営費・売上すべてにどのように関わってきてているのか、理解することが出来ました。

そして自社には欠かせない車の使用がどれほどCO2を排出し、使用の仕方を改めて可視化することで、エコドライブに気をつけようという意識化になり、今まで削減のところ思考に無かった運転の仕方というところに着目することが出来ました。

今後とも、社内共有、社員の協力、社員一人一人が当事者意識を持つことで自社で取り組むSDGSにもつながり、自然と働きやすい会社作り、こんな会社で働きたいと思っていただける会社になっていくと思います。